実習指導者と教員とで「共に創る」これからの精神看護学実習

○茅根　寛子[1)]，渡辺　純一[1)]，田野　将尊[2)]，佐藤　美保[3)]，小川　賀恵[4)]，浅沼　瞳[5)]

1）公益財団法人 井之頭病院，2）医療法人埼友会 埼友草加病院，3）杏林大学 保健学部 看護学科 看護学専攻，
4）東京医療保健大学 立川看護学部，5）昭和大学 保健医療学部 看護学科

精神看護学教育は、精神障害者に対する地域移行志向の医療、災害時精神保健活動など、社会の変動やニードにあわせて常に変化が求められます。そのような中、特に「実習」においてはこの数年、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い今までとは異なる方略を模索せざるを得ませんでした。一方で、まだコロナ禍前の状況に完全に戻ったとはいえませんが、この経験により、これまでの実習における課題が見えてきたり、新たな実習の可能性を探ったりするきっかけとなったことも事実です。

すでに教育全体の変化として、VRやシミュレーターなどのデジタル技術を活用した教育（DX：Digital Transformation）や、インターネットを活用したICT（Information and Communication Technology）教育の推進など、実習前学修や実習の代替となる方略は多様化してきています。このような時代の変化をうまく取り入れながら、臨床という現場だからこそ目指すことのできる学びを追求する「実習」という学修方略は今、変化の過渡期を迎えているのではないでしょうか。

本ワークショップでは、この変化の時期をチャンスととらえ、学修者である学生に実習でどのような看護実践能力を獲得してほしいのか、臨床という現場を活かした学びとは何か、実習に向けた学内教育はどのように組み立てていけば良いのか、これまで積み重ねてきた教育を大事にしながらも学生のより望ましい成長を促すための方法を皆さんと未来創造的に話し合っていきたいと考えています。

また、実習は患者様－学生－指導者－教員の4者の関わりが基盤にあり、なかでも指導者と教員は共に実習を創っていく立場だと私達は考えています。これまで私達は「実習指導者と教員が協働して実習を考える」ことを軸に、継続的にワークショップを開催してきました。今回は、これからの実習について共に考える機会を通じて、共通する役割、それぞれが担う役割、協働できること、について意見交換をしながら、指導者と教員がチームであることを感じていただけたらと考えています。そのため、臨床で実習指導に直接的・間接的に携わっている方、これから携わる方、教員を交えたグループで意見交換を中心としたワークショップを展開します。倫理的配慮として、互いのプライバシーが守られ、安心して話し合える場を作ってまいります。

ご参加にあたり、実習指導や教育経験の長さは問いません。「これからの実習について考えてみたい、他の人の考えを聞いてみたい」「実習指導者／教員と話す機会がなかったから話してみたい」「実習指導に慣れることで精いっぱい、実習のことをもっと理解したい」「自分の職場に情報を持ち帰りたい」など、関心がある方に積極的にご参加いただきたいと考えています。